



マニラ市トンド地区での物資配布

完了報告書

庭野平和財団 NPF プログラム「緊急助成」

フィリピンマニラ首都圏における、COVID-19感染拡大により

生活が困窮した者に対する緊急物資提供と

感染拡大防止のための意識啓発活動

特定非営利活動法人アイキャン

2021年1月30日



感染拡大防止のための意識啓発活動

謝辞

この度は、「フィリピンマニラ首都圏における、COVID-19感染拡大により生活が困窮した者に対する緊急物資提供と感染拡大防止のための意識啓発活動」に対するご助成を頂きまして、誠にありがとうございます。

フィリピンでは、3月15日よりマニラ首都圏において、世界で最も厳格な防疫措置が施行され、路上の子どもたちや住民は収入を失い、満足に食事を取ることもできずに、命が危険な状態に置かれていました。また、当団体のパートナー団体であるパヤタス地区の住民組織は経営危機に陥ってしまいました。

そのような危機的状況の中、本事業の物資配布及び感染予防の意識啓発活動と住民組織の経営基盤強化を通して、COVID-19の影響により困窮化した人々の命と生活を守ることができました。改めまして、この度はご助成の機会を頂き、心より感謝申し上げます。

特定非営利活動法人アイキャン
事務局長 蒔 健太郎

1. 事業概要

フィリピンにおける COVID-19 感染拡大の影響で生活が困窮し、個人用保護具や衛生用品の欠如により、感染リスクを抱える社会の中で脆弱な立場や状況にある人々に対して、食糧・個人用保護具・衛生用品の提供と、感染拡大防止のための意識啓発活動を実施した。また、マニラ首都圏ケソン市パヤタス地区で長年当団体のパートナーとして活動している住民組織が、COVID-19 感染拡大により売り上げが無くなり、経営危機に陥っていたことを受けて、当住民組織へのマスクの発注を通して収入を得る機会を与えると同時に、財務管理や緊急時対応計画（コンティンジェンシープラン）策定の補助も実施し、経営基盤強化及び能力強化活動を実施した。

2. 事業成果

成果 1：生活が困窮したマニラ首都圏の路上の子ども・若者、及びゴミ処分場周辺の住民合計 **190 世帯（約 1,140 名）** の命と生活が守られた（**目標達成率 158%**）。

1) 対象：マニラ首都圏の 6 地区の路上の子ども・若者、及びゴミ処分場周辺の住民

※マニラ市トンド・ブルーメントリット・エスコルタ地区、
ケソン市パヤタス・ドゥパックス・アグハム地区

2) 実績：

日付	提供地区	裨益世帯数	裨益者数	提供物資
2020 年 7 月 16 日	トンド	25 世帯	150 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 7 月 29 日	エスコルタ	13 世帯	78 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 7 月 29 日	ブルーメントリット	18 世帯	108 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 7 月 30 日	パヤタス	20 世帯	120 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 7 月 30 日	ドゥパックス	10 世帯	60 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 7 月 30 日	アグハム	9 世帯	54 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 10 月 6 日	パヤタス	20 世帯	120 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 10 月 6 日	エスコルタ	13 世帯	78 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 10 月 8 日	ドゥパックス	9 世帯	54 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 10 月 8 日	アグハム	10 世帯	60 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 10 月 14 日	トンド	25 世帯	150 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個
2020 年 10 月 14 日	ブルーメントリット	18 世帯	108 名	米 10 kg、缶詰 12 缶、マスク 3 枚、アルコール消毒液 2 本、石鹼 1 個

注 1：裨益世帯数は、物資提供受領シートに受領のサインをした世帯数に等しい。

注2：裨益者数は、世帯平均人数を6名と仮定して割り出している。

成果2：路上の子ども・若者、及びゴミ処分場周辺の住民合計 **551 世帯（約 3,306 名）** の感染拡大防止の意識及び知識が向上した（**目標達成率 459%**）。

1) 対象：マニラ首都圏の5地区の路上の子ども・若者、及びゴミ処分場周辺の住民

※マニラ市トンド・エスコルタ・ブルーメントリット地区、ケソン市ドゥパックス・アグハム地区

2) 実績：以下の通り合計 11 回実施（2 地区においては、1 日に 2 回に分けて実施したため）

日付	実施地区	直接裨益者数	間接裨益者数	備考
2020 年 7 月 29 日	ブルーメントリット	18 名	108 名	物資提供時に実施
2020 年 8 月 26 日	エスコルタ	113 名	678 名	研修を 2 回に分けて実施
2020 年 9 月 2 日	トンド	52 名	312 名	
2020 年 9 月 9 日	トンド	85 名	510 名	
2020 年 9 月 10 日	トンド	72 名	432 名	
2020 年 10 月 7 日	アグハム	47 名	282 名	研修を 2 回に分けて実施
2020 年 10 月 8 日	ドゥパックス	75 名	450 名	
2020 年 10 月 8 日	ドゥパックス	71 名	426 名	
2020 年 10 月 14 日	ブルーメントリット	18 名	108 名	物資提供時に実施

注1：直接裨益者は意識啓発活動の参加者を指し、間接裨益者は参加者の家族を指す。

世帯平均人数は6名で計算。

注2：路上の子どもが生活するブルーメントリット地区では、ソーシャルディスタンスを維持して活動を実施するスペースの確保が困難であったため、物資提供時に意識啓発活動も実施した。

成果3：提供用マスクの受注を通して、現地の住民組織の経営基盤が安定し、活動を継続できるようになった（**目標達成率 100%**）。※2021 年 1 月 30 日時点、住民組織は活動を継続しているため達成率は 100%。

1) 対象：パヤタス地区の住民組織

2) 実績：

- ・2020 年 12 月末時点で、1,495 枚のマスク完売（売上げ：133,600 ペソ【約 29 万円】）
- ・財務管理研修、緊急時対応計画（コンティンジェンシープラン）策定補助（2020 年 8 月 27 日）
- ・財務管理研修、緊急時対応計画（コンティンジェンシープラン）策定補助（2020 年 11 月 23 日）

成果4：現地の住民組織のメンバー10名の COVID-19 感染拡大予防の知識、及び緊急時における対応能力が向上した（**目標達成率 100%**）。

1) 対象：パヤタス地区の住民組織のメンバー10名

2) 実績：

- ・布マスクのデザイン協議、COVID-19 感染拡大防止方法に関する事前研修（2020 年 7 月 17 日）
- ・マスクのデザイン指導、緊急時における対応方法の協議（2020 年 9 月 3 日）

3. 活動詳細

1) 食糧、個人用保護具、衛生用品の物資提供

(1) 対象者の選定

COVID-19 感染拡大以前より社会の中で脆弱な状況にあり、この度のコロナ禍によって収入を失い、困窮したマニラ首都圏 6 地区の路上の子ども・若者とゴミ処分場周辺の住民を対象にした。その中でも、これまで当団体の活動に参加してきた者、世帯内の収入が完全に途絶えてしまった者を対象にした。対象者選定基準は、現地の自治体や地域住民に明確に説明を行い、透明性を確保した。

(2) 物資調達・梱包

布マスクはパヤタス地区の住民組織から仕入れ、その他の物資は三者見積もりを行って、最安値の業者から物資を調達した。また、コロナ禍により売り上げが激減した地元の小規模業者を支えるために、可能な限り、小規模業者からの調達を行った。調達した物資は、各世帯に提供する量と個数を確認した上で、当団体職員が梱包作業を行った。



当団体が運営する児童養護施設の子どもとともに、物資の梱包作業を行う ICAN 職員

提供した缶詰、アルコール消毒液、石鹸

(3) 物資提供

感染予防対策（マスク着用、ソーシャルディスタンス等）を十分に講じた上で、各世帯一人ずつに物資を提供した。提供の前には、庭野平和財団の説明、物資内容・個数を伝えるとともに、物資内容等に関して不満がある場合は、気軽にスタッフに声を掛けてほしい旨を伝えた。提供は、団体規定用の提供シートを使用し、各世帯代表者からの受領のサインを確保した。物資提供は、高齢者や障がい者、妊婦等を優先して行った。調理器具等を所持していない路上の子どもに対しては、米と缶詰を直接提供するのではなく、地元の食堂に食糧の購入と調理を依頼し、路上の子どもたちに調理した料理を提供した。



提供前に、庭野平和財団の説明と物資内容・個数を説明する ICAN 職員



提供シートに受領のサインをする住民



物資一式を受け取るトンド地区の母親



地元の食堂で食事を取る路上の子どもたち

(4) 事後アセスメント

後日、各世帯に物資の内容や生活の状況に関する聞き取り調査を実施した。その結果、提供された物資により、10日から14日間の食事を確保することができ（提供は2回なので、合計で20日から28日間分）、その間は収入を貯金することができたため、本介入が困窮から脱出するための一助となったことを確認した。

2) 感染拡大防止のための意識啓発活動

(1) 現地政府、地域住民との調整

現地政府と意識啓発活動の目的、実施日時・会場、感染予防対策について事前打ち合わせを行い、地域住民への参加促進や当日の警備体制等に関する協力を仰いだ。地域住民にも幅広く伝えるために、当団体職員自らも地域を回り、意識啓発活動に関する情報を伝えた。

(2) 意識啓発活動

参加者の検温、マスク着用、アルコール消毒の徹底とともに、ソーシャルディスタンスを維持して、意識啓発活動を実施した。意識啓発活動は、パヤタス地区の住民組織によって実施され、正しい手洗いの

仕方、アルコール消毒液の正しい使い方、マスクの使い方及び手入れの仕方、感染リスクを下げるための生活環境の整え方などが参加者に共有された。



COVID-19 の症状を説明する住民組織のメンバー



正しい手洗いの仕方を説明する住民組織のメンバー

(3) 事後アセスメント

後日、感染予防のための取り組みを実践しているかの事後評価を行い、意識啓発活動参加者が十分に対策を講じていること、対象事業地には感染者が発生していないことを確認した。

3) 現地の住民組織への経営基盤及び能力強化活動

(1) マスクのデザインの協議・指導

当団体の看護師スタッフと住民組織との協議の結果、マスクは息苦しさを軽減するために立体型が採用され、布の内部に目の細かいガーゼを3層重ねて入れ込んだデザインに決定された。また、販売用のマスクとして、インドネシアやマレーシアの伝統的なろうけつ染め布「バティック」を使用したマスクの製作も行った。



マスクのデザインを住民組織と協議する ICAN 職員



マスクのデザインを指導する ICAN 職員

(2) パヤタス地区の住民組織への事前研修

当団体の看護師スタッフが、パヤタス住民組織のメンバーに対して、事前に COVID-19 感染拡大防止に関する研修を行った。当住民組織は、パヤタスゴミ処分場周辺に住む住民に対して、病気の予防方法に関

する意識啓発活動を行った経験を持っているので、当メンバーに対しては、自身の経験をもとに、感染予防に関する意識を高める必要性を共有するよう助言を行った。

(3) 財務管理研修の実施

パヤタス住民組織のメンバー10名に対して、コストの考え方、コスト削減方法、収支を把握する必要性、簡易的な貸借対照表の作成方法に関する研修を実施した。



コストの考え方について教える ICAN 職員



簡易的な貸借対照表作成の練習をする住民組織

(4) 緊急時対応計画（コンティンジェンシープラン）策定の補助

この度のコロナ禍のような外部要因で売上げの大幅な減少に陥った際に、経営打撃を最小限に抑えるための計画の話し合いを行った。話し合いでは、売り上げの20%を内部留保金として処理して、組織としての貯金額を増やしていくことが計画に含まれた。また、現在の主要マーケットは日本であるので、ローカルでのマーケットを確保し、マーケットの多様性を図っていく方向性が固まった。



緊急時でも経営を継続していくための戦略を話し合う ICAN 職員と住民組織のメンバー



マーケットの多様性の確保について話し合う住民組織のメンバー

4. 現地からの声

路上の子どもたち

- ・ロックダウンにより、町からは人がいなくなり、僕は収入がなくなりました。僕たちは、現地政府から救援物資を受け取ることができず、不公平に感じたけど、どうすることもできませんでした。アイキャンは僕たちを見捨てずに、食事を提供してくれて、どうもありがとう。
- ・お店のおばちゃんが、サービスで野菜も一緒に提供してくれます。毎日ここで友達と食事を取ることができて嬉しいです。
- ・自分の顔のサイズにあったマスクだから、ぴったりです。他のマスクだと大きくて、着けていても意味がないと思っていたの。



ゴミ処分場周辺に住む住民

- ・私の家族は6人ですが、4月～11月の8か月の間に、政府からはお米3キロ、缶詰10缶を2回受け取ったのみで全然足りませんでした。1日の食事を2回や1回に減らすことで、何とか生活していました。ですので、お米を10キロも提供してくれて、本当に助かります。これで、私の子どもに満足に食べさせることが出来ます。
- ・マスクを購入する余裕がなく、マスクを使いまわすこともありました。今回の感染予防啓発活動で学んだことは子どもに実践させて、自分たちの命をしっかりと守っていきます。



パヤタス住民組織のメンバー

- ・私の旦那はCOVID-19の影響で仕事を失ってしまいました。私も安定した収入はありません。マスクの製作を通じた収入のおかげで、私は家族を養うことができるようになりました。
- ・私たちの組織は2000年に設立され、これまでずっと活動を続けてきましたが、この度のCOVID-19の影響により経営危機に陥ってしまいました。途方に暮れていましたが、自分たちの技術を使ってマスクを製作することで、組織を立て直すことが出来ました。今後は、もっと組織基盤を強化して、持続的に組織を運営できるようにしていきます。



5. 今回の教訓と今後に向けた所感

- ・緊急時には、物資の提供がなされることが多いが、対象事業地においてマーケットが機能しているか、対象者が調理器具等を利用できるかという点を検討した上で、介入方法を決定した方が良い。本事業では、路上の子どもに対して、地元の食堂と連携して食事を提供したことで、効果的に路上の子どもたちの命を守ることができたとともに、経営的打撃を受けた地元の食堂を支えることができた。
- ・ロックダウン期間中、路上の子ども達は政府からの支援から取り残され、NGOや教会、地元の食堂や商店から食料を分けてもらい、命を繋ぐことができた。市民団体や地域による路上の子ども達への支援は、政府による対応を補完するべきであり、政府が自身の責任を果たすことができるように、政府への働きかけ、緊急時の対応方法等に関して政策提言を実施していく必要がある。